

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	052 -	事業名	古戦場桜まつり事業		担当部課	くらし文化部生涯学習課		
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 文化をみがき、人が輝くまち			会計区分	一般会計		
	まちづくり行程表・フラッグ	—			予算区分(款 - 項 - 目)			
	第6次総合計画・基本目標	—			9-4-6 文化財費			
	法定受託事務の有無	—						
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 長久手古戦場桜まつり実行委員会補助金交付要綱						
	事業開始の背景、経緯等	平成25年度の長久手古戦場桜まつりから市民による長久手古戦場桜まつり実行委員会の主催として、実施している。						
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 国指定史跡である長久手古戦場を含む古戦場公園で、市民及び長久手市の協働事業として長久手古戦場桜まつりを開催し、史跡のPR及び市民同士の交流を図る。						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 長久手古戦場桜まつりの来場者。史跡のPR及び市民同士の交流。						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 国指定史跡「長久手古戦場」を多くの人に興味・関心を持ってもらう。市民同士が交流する場にする。						
	事業を構成する事務事業(B票)	① 古戦場桜まつり事業	改善・見直し	④				
	②			⑤				
	③			⑥				
コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	事業費(A)	千円	予算	2,565	2,565	2,609	2,609	2,606
			決算	2,512	2,478	2,273	2,369	
	人件費(B)	千円	決算	2,903	4,277	2,175	2,702	
総コスト(A)+(B)	千円	決算	5,415	6,755	4,448	5,071		
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	A 来場者数	人	目標	8,500	8,500	8,500	8,500	8,500
			実績	5,000	8,000	8,000	8,000	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 多くの市民等に史跡PRや交流促進を図るため、8,500人の来場者を目指す。								
B								
C								
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 日進市の岩崎城春まつり(主催:日進市商工会)では、行政に頼らない運営を行い、行政で最低限のサポートをする体制を整えている。						
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 長久手古戦場桜まつり実行委員会が主体となり、まつりの企画・運営・PRしたが、目標値には至らなかった。						
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 来場者数は横ばいであるが、これまで、長久手古戦場桜まつり実行委員会が主体となり、アイデアを出し合い、企画・運営・PRしてきた。徐々に実行委員会の自主性、主体性が高まってきている。						
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 長久手古戦場桜まつりの魅力ある企画・運営に取り組んでいく必要がある。						
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 長久手古戦場桜まつり実行委員会が主体となって国指定史跡のPRと魅力あるまつりを開催していく。						
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 長久手古戦場桜まつり実行委員会主体で企画、運営を全て実施していく。						

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	* 実行委員会の自立を目指すとともに、事業規模の見直しを検討し、経費の節減に努めてください。 * 引き続き実行委員会形式で実施するなかで、職員の負担軽減を図ってください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	古戦場桜まつり事業		担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	—
事務事業名	①	古戦場桜まつり事業	予算区分	9-4-6 文化財費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和63年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手古戦場桜まつりを実行委員会形式により市民主体で開催している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民主体となり、長久手市が誇る国指定史跡「長久手古戦場」のPR、市民交流のため、多くの人に訪れてもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	2,565	2,565	2,609	2,609	2,606
		決算	2,512	2,478	2,273	2,369	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 古戦場桜まつり補助金			2,330 千円				
(2) 損害保険料			32 千円				
(3) 手数料			7 千円				

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
実行委員会開催回数	回	見込	5	5	5	6	6
		実績	5	5	5	6	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))> 古戦場桜まつり補助金の交付により、市民主体による実行委員会形式で6回の委員会を開催した。実行委員会では、まつりの企画や運営について検討を行った。当日は約8,000名の来場者であった。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

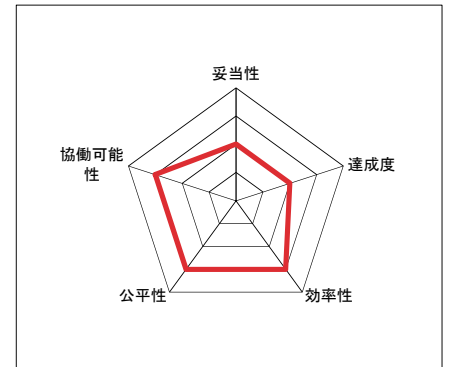
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町でも実行委員会等が主体となって、まつりを開催することが多い。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
2,609 千円 2,606 千円 △ 3 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
長久手古戦場桜まつり実行委員会が、さらに主体性を高めて、まつりの運営に取り組む。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
実行委員の主体性を高めるため、会議では、自分たちに何ができるか、また課題や解決策を考えた。本部受付は、実行委員が交代でその役割を担った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	—	—	—	70
実績	58	78	66	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市民主体の実行委員会がまつりの企画を考え、運営も手がけている。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
実行委員の主体性を高めるため、会議では、自分たちで何ができるか及び課題と解決策を考えた。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
まつりに多くの来場者を集めるため、実行委員によるPRや情報発信により、目標の来場者数に達するようにする。

7. 今後の方向性

改善・見直し